

(別紙様式2) 利用学習報告書

平成28年 8月 15日

仙台市富沢遺跡保存館 館長 様

仙台市立折立小学校

校 長 菅原 幸二

担 当 第6学年 吉田 道生

「縄文の森広場」利用学習報告書の提出について

表記の件について下記の内容で提出いたします。お取り計らい方よろしく申し上げます。

記

1 事後指導について

(1) 実施日

- ・ 平成28年 7月 1日(金) 5校時～

(1) 主な内容

社会科の授業で、見学したことについての新聞を作成した。

2 送付する資料

(1) 児童の作成した新聞

…新聞(3枚)

3 個人情報保護との関連

提出した資料中の児童生徒については、個人名は伏せております。お取り計らい方よろしく申し上げます。

担当：第6学年 教諭 吉田 道生

TEL 226-1333 FAX226-2915

Email being091@sendai-c.ed.jp

タイムスリッヅ 新聞

発行者

地底の森ミュージアムについて

地底の森ミュージアムにある富沢遺跡はおよそ二万年前のものだとしておもしろい。スクリーンの映画で、昔の人は狩りや採集をしてくらしていたことが分かった。係の方が遺跡から、たき火をしたり、石器を作ったりしたあとが見つかつたんですよ。とおしゃっていたのでそんなことから、くらしが分かるんだなあと思つた。氷河期の森には、たくさん植物があり、自然の様子まで知るゝことができた。樹木の多

くはトウヒやグイマツなどの針葉樹で、このころからトウヒなどがあつたんだと分かった。

地底の森ミュージアムでは、石器作りの体験をした。しかのつので石をたたき、ペリシをめぐると、中にはがれた石を使うので、石とよばれている。実際に体験をしてみても、石器人の技術はとて高度で、私たちがより思はるかに上だと思つた。



絶滅したトウヒやグイマツの化石

地底の森には、動物や昆虫もたくさんいたらしい。

例えばこの写真のワコシメゲンゴウは、二万年前には富沢に生息していたが、今では北海道よりも北で見られなくなつたらしい。このころから二万年前は、今より気温が低かつたことが分かる。おもしろい。

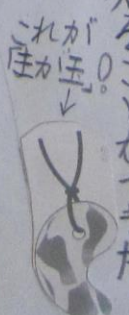


縄文の森広場について

縄文時代は、およそ四千年前から二万年前の間続いた。このころ人々は、たて穴住居に住んでいたらしい。実際に中に入って、中かともすずしいことが分かった。入り口が南向きで日光が長い時間当たるようにくふうしていた。

周りにはたくさん木がはえていて、よく乗は木で家を作つたり、実を食べたりしていたので、とてもよく立たんたなあと思つた。こゝでの体験は、石のアクセサリー(まが玉)作りだった。意外とむずかしく、形が変なふうになつてしまつた。わたしは、石を使つたけれど、縄文人は、もっとかたい石、玉か玉を

作つていたと知つておもしろい。中のてんじ室には、実際に見つかつた土器のかけらや、縄文時代の暮らしを復元した模型があつて、四千年前のことをよりふかく知ることができた。



編集後記

この二つの遺跡を見て、学んだことは、大昔の生活は、とてもかゝく、毎日、くらしをして、いた、ということだ。食べ物、簡単な手に入るの、幸せなことだと思つた。五人で新聞を書いていると、さらに理解が深まつたので嬉しかった。

発掘新聞

発行者 3班

地底の森ミュージアムについて

旧石器時代の富
沢は、湿地帯だ
った。当時の富沢に生
息していた虫が
今は北海道より
北で生息して、い
つかの富沢から分
つた。この富沢が
地底展示室の
遺跡は、小学校
を建てたよ。発
見された時に、公
開された。その
一部を公開し



アカエゾマツ

当時の富沢
の木は、針
葉樹で、ト
ミザワトウ
ビという絶
滅種の木が
多かった。多
くのトミザ
ワトウヒに最
も似ている木
は、アカエゾ
マツという木
である。

2万年前の地層
は現在の地面か
ら約5m下にあ
る。2万年前の人類
の進化は進人とい
う段階にあたる。
当時、富沢にキ
タ旧石器人たちが
残っていた。石器は
ナイフ形石器とい
う。また、その石器を
使ったという狩り
道具もある。



▲たて穴住居(復元)

縄文の森広場の
あるところの遺
跡は、山田上ノ
台遺跡という。
この遺跡は、約
4000年前のもの。
縄文時代は、万
年くらい続いた。
当時の家は、た
穴住居といっ
て、木の枝で
くわいて、南に
たて穴住居の
入り口は、南に
いて、土がも
られて、穴住
居の中は暗
かった。

縄文の森広場について

この遺跡のすぐ南
を、名取川が流
れていて、北西に
ある。山が、太
白山がある。昔、
アマガハ玉は、昔
クセサリといっ
て使われていた。
丸い形だけじゃ
なく、玉もあ
った。

校外学習 感想

あなた	みな	み	れん	かり	も
昔の歴史があつた。 かた。泉もあつた。	体験をして、石器を作 るにはとても大変だ。	たて穴式住居は、とても すずしかった。	体験で、矢じりを作った けど、とても難しかった。	旧石器時代の縄文時 代の、ことについて、くわしく しれて良かった。	

おはぎ新聞

発行者

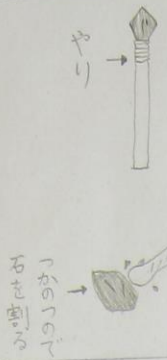


校外学習に行きました

地底の森ミュージアムについて

旧石器時代の人について

旧石器時代の人たちは、石と木のぼうを、家でないことが分かります。ひもで結び、やりを作ったり、しかのついで、使いやすい石に加工したりして、今の時代とは全然ちがうと知りました。



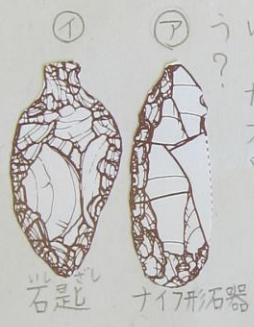
私たちは、しかのついで石を少しずつ割っていく体験をしました。時間と体力が必要で、ぶあつい石ほど大変でした。



遺跡展示
針葉樹を主とする湿地林の跡と旧石器人のキャンプ跡が見つかりました。



Q. 2万年前に富沢にきた旧石器人たちが残していった石器はどれでしょう？



A. アのナイフ形石器です。この石器は「やり先」に使っていました。

旧石器時代の人たちは、このような石器を作りました。そして、その他にもたくさんの道具を使っていました。

縄文の森広場について

縄文時代の人について

縄文時代の人は、竪穴住居という所に住んでいました。竪穴住居は、くりの木でできていました。

竪穴住居からたき火のあとが見つけられました。そして、家の中から、やりや土器などの道具も見つけられました。家の周りには倉庫や落とし穴がありました。入り口はせまかったです。



縄文時代の人たちは、私たちよりせが低く、じゃみょうも短かったそうです。



じゃみょうはだいたい30才！
六年生ぐらいの身長です。

まとめ

昔の人たちは、工夫をしていろいろな道具を作ってきた。昔の人たちの知恵は、今のくらしに役立っている。そして、道具やアクセサリを作るのに、たくさんの時間や体力を使っていたことを感じました。



石玉